



どうして弘道館は 松原にできた?



各地から集まりやすい場所だったため。

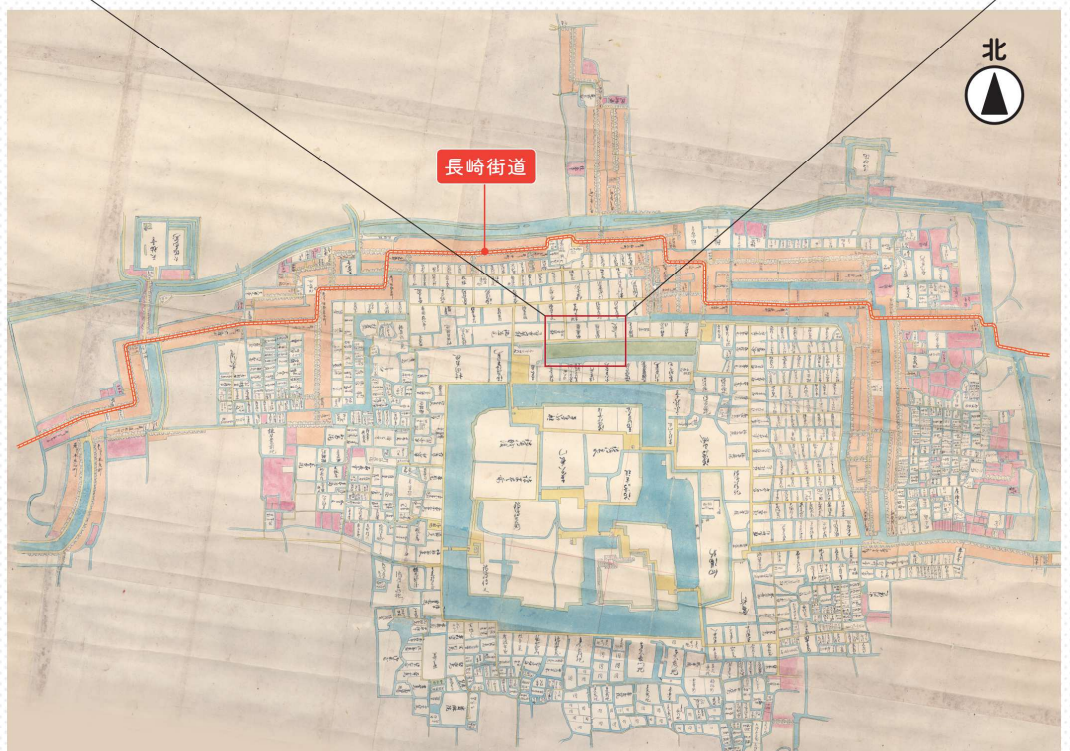
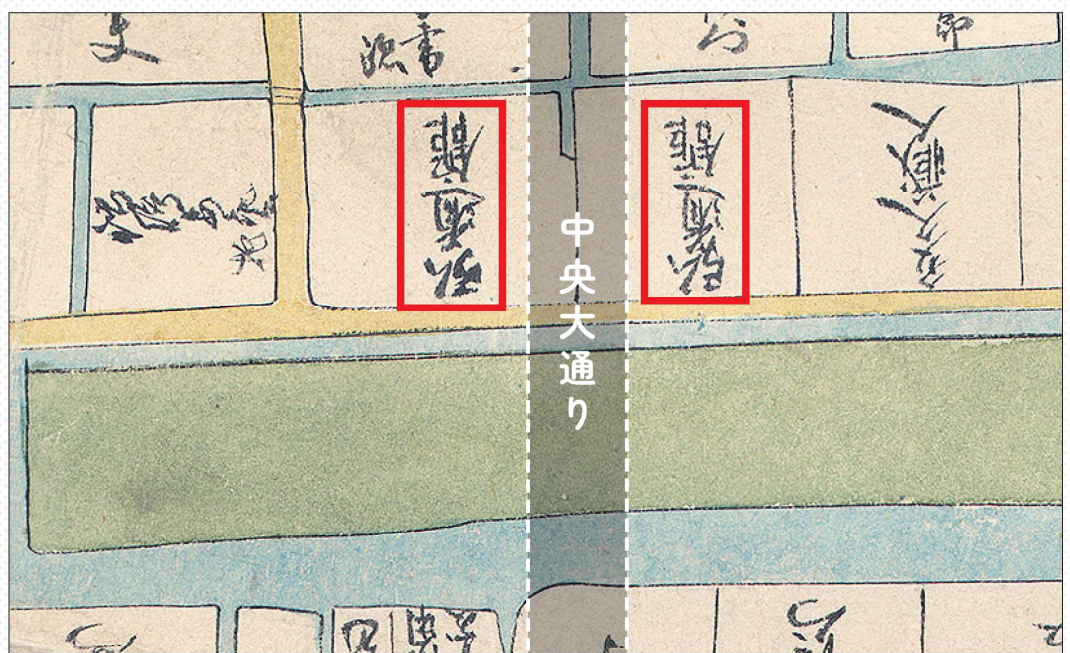


戸時代は、藩政を担う武士の組織的な教育が必要でした。当時の政策意見書※に、藩校を「四方より懸かりよき場所」(各地から集まりやすい場所)に作るべきとあり、用地選定の結果、天明元年(1781)に藩校弘道館が松原小路に創設されました。現在のバルーンミュージアムと、中央大通りを挟んだその西側です。

清らかな松原川のほとりの弘道館は「松水齋」^{しょうすいこう}とも呼ばれました。のち天保11年(1840)には松原川を挟んだ南側に移転・拡張しました。物ぐさな副島種臣^{そへじまたねおみ}は学生時代、松原川で濡らした指先を目元に当てるだけで朝の洗顔を済ませたというエピソードも伝わっています。

松原地区は、幕末から現代にかけて「教育・歴史・文化ゾーン」の性格を色濃くしていきますが、その端緒は弘道館ができた、つまり松原が佐賀の人たちにとって集いやすい場所だったことに起因すると言えるでしょう。

※「御仕組八カ条」鍋島報効会所蔵／佐賀県立図書館寄託
(鍋島家文庫)



文化御城下絵図 文化7年(1810)頃
鍋島報効会(徴古館)所蔵